

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族的な雰囲気の中で安心して毎日を過ごすことができるよう、ホーム内を自分の家と同じ感覚で絵や花を飾り、季節の移り変わりを感じる事ができるようにお手伝いをします。また、地域との交流の場を持つことによって、その人らしい生活が送れるよう支援します。	○	地域の高齢者との交流を民生委員の協力を得て月1回ホームで行う。地域の方々にグループホームを理解して頂く機会を持つ。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、管理者及び職員が当ホームの理念、家族的な雰囲気を大切にすることとを共に意識しながら、入居者に対する言葉かけやケアに反映されるよう努めています。月に1度は、職員間でカンファレンスを行い、より良いサービスを提供できるようにします。	○	職員間での話し合いの機会を多く持つことによって、個々の特性を把握し、より良いサービス提供ができるよう取り組んでいきたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2か月に1回の地域密着型推進会議を通して、地域の人々や家族に理解していただけるよう働きかけています。	○	家族や地域住民にわかりやすく理念を伝えていくために、日頃から実践していることをホーム便りを通じて理解して頂くよう取り組みたい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	隣近所の方々には日頃からあいさつなどの言葉かけを大切に、行事ごとを通して日常的なつきあいができるようにしています。一人暮らしの高齢者の方には、お風呂を提供しています。また、ボランティアなどのイベントがある時は声かけをして参加して頂いています。	○	地域の高齢者の方々とレクレーションを通して交流を図り、いつでも来れるような雰囲気作りをしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が地域住民の一員として地域活動に参加できるように自治会長並びに民生委員に協力を求め、出来る事を行っています。現在、民生委員の協力の基で地域高齢者との交流会を当ホームで行っています。	○	今後、同じ校区内の保育園や学校との交流を深めていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者（独居老人）の方々にグループホームとはどういう施設なのか知って頂くために時々ホーム見学会を兼ねて交流会を持っています。	○	いつでもホームに立ち寄って頂けるよう、積極的に働きかけをしていきたい。また、地域住民を対象に健康相談や、認知症についての勉強会を医師を交えて行っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の内容を職員に説明し、評価で見出された課題について話し合い、改善策を立て、その実施に取り組みました。	○	前回の外部評価では、利用者と職員との協働の場が少ないという指摘があり、利用者、職員間で話し合いをしました。今では個々の持てる力を発揮できるよう職員も見守り、場合によっては介助しています。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回テーマを決め、運営推進会議を開いています。事業所の報告だけではなく、行政機関等の意見・要望を受け、今後のホームの運営に反映するよう努めています。	○	他のグループホームとの意見交換の出来る機会を作り、ケアの資質の向上を図りたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に積極的な情報提供を行い、また、問題解決に向けた相談・助言を受ける事によって、ホームの運営や現場のサービスの課題解決に取り組んでいる。	○	市町村担当者及び行政関係者等との関わり合いを深め、当ホームをもっと理解して頂くよう働きかけていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員間では、権利擁護事業、成年後見制度について理解はしているが、まだ十分に学ぶ機会をもてないのが現状です。現在、入居者の一人が権利擁護事業を利用しています。	○	今後、勉強会をしていきたい。できれば専門員の方を招いて講習会を開けるよう働きかけたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	現在、高齢者虐待防止関連法については十分に理解していない。虐待行為そのものは今のところ一度もないが、今後は虐待についての対処方法を確立し、周知徹底をしていきたい。	○	高齢者虐待防止関連法について、十分に理解できるよう学ぶ機会を増やし、また虐待行為を発見した場合の対処方法を確立していきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分な説明をするよう心がけています。利用者、家族の理解が十分得られるよう疑問にはわかりやすく説明します。また、当ホームでできること、できないことを的確に説明し、誤解のないようにします。	○	今後は、重度化や看取りについての対応や医療連携体制の実際などについての説明をし、家族の同意を得るようにしたい。同意書の作成を検討し、実施する。

福岡県 GH「日和庵」すわの 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との対話を多く持つようにしています。全 体で話し合う場と個別で話し合う場、両方を持つ ようにしています。また、利用者だけではなく、 家族からの意見、要望も聞く機会を作っていま す。利用者の中には、十分に思っていることを表 現できない方もいますので、介護記録から言っ た言葉などから把握し、ケアカンファレンスで検 討します。	○	介護記録だけではなく、職員間で共有できる記録 シートをつくり、利用者個々の変化など細かな情 報を集め、利用者の意見、不満、苦情を把握し、 速やかな対応をしていきたい。
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	最低、月に1度は家族の方が来られるので、その 時に利用者の様子、身体状況等の報告をします。 疾患等については主治医から説明をして頂くこと もあります。急を要する場合は直接、連絡しま す。ご家族でも遠方いらっしゃる方には、時々 電話で利用者と話していただきます。また、写真 等も送っています。	○	なかなか来られない家族の方にも定期的にお便り を出して安心して頂けるようにしたい。また、担 当スタッフより家族便りを作成し、今の様子など を写真を交えて報告していきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設置しているが、いまだか つて利用した形跡がありません。できるだけ、管 理者、職員が家族の意見、不満、苦情を聞くよう にしています。管理者はご家族の訪問時にはでき るだけ対話のできる時間を持つように努めていま す。	○	今後は、家族会を設け、家族同士の集まりの場を つくり、いろいろな意見や要望を出して頂き、そ れをホーム全体で話し合うようにしていきたい。
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	月に1回、職員会議を開催しています。業務内容 の見直しや、行事等について職員の意見を出し合 いながら、職員全員で取り組んでいます。また、 職員のリーダーを中心に意見をまとめ、質の向上 につなげる取り組みをしています。	○	月に1回、勉強会や、個別面談を行い、意見を聞 くようにし、日頃からコミュニケーションを図る よう心がけをするようにしたい。また、体調管理 においても配慮したい。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	勤務シフトを作成するにおいて、職員一人一人 に休みの希望3日まで聞くようにしている。職員 の無理のないように、夜勤あけは必ず休みを入れ るようにしている。職員の急病や急な休みの時 は、対応してくれるスタッフを確保しています。 夜勤は通常、常勤者で行っているが、夜勤専従の 看護師も確保し、継続してシフトに入ってもらっ ている。	○	管理者以外に有資格者を導入し、状況に応じた対 応ができるように通常のシフトには入れず、夜間 の対応や利用者の変化に応じた柔軟な体制を確立 したい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や職員が馴染みの関係を保つことに重視 し、職員が変わる時は、引継ぎの期間を十分に取 り、利用者の不安などをできるだけ最小限にする ように努めている。また、新しい職員が入る時は 利用者にきちんと紹介をします。	○	職員の交代については家族にも十分に配慮し、不 安や不満にならないような対応方法を検討した い。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢・経験等関係なくやる気のある人を採用するようにしています。また未経験の職員には、無理なく業務に慣れるよう、スタッフリーダーを中心に指導します。	○	職員の採用に関しては、今後も性別・年齢関係なく採用していきたい。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	現在、高齢者（入居者）の人権に関する教育・研修参加ができていない。	○	ホーム以外の他の事務所や市町村主催の勉強会・研修には多くの職員が参加できるよう取り組んでいきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ全職員に学習会、研修に参加させたいが、現時点では、管理者、スタッフリーダーしか参加していない。当ホームでは研修等の報告は職員会議で行っている。	○	事業所以外で開催される研修には多くの職員に参加できるようシフトの調整をしたい。また、ホームでの勉強会にも取り組みたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、その研修に参加し、サービスの質の向上に役立てています。また、他のホームの管理者と交流を持ち、運営推進会議に参加して頂きました。	○	他のグループホームへの見学会や相互研修を通じて、事業所以外の人材の意見を取りいれたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が利用者と離れゆっくり休めるよう休憩室を確保しています。また、職員の希望により、楽に身体を休めるよう量に変えて対応しています。管理者は職員の相談、助言ができるよう日頃からコミュニケーションを取るよう努めています。	○	親睦会や、他の事業所の職員や地域のケア関係者との交流会を持ち、職員のストレスを緩和できるようにしたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に1回、職員の健康診断を実施し、健康管理に配慮しています。代表者も毎日、現場に来ており利用者や過ごしたり、職員と対話を持ち、職員が向上心を持って働けるように努めています。	○	職員の資格取得に向けた支援を行う。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努め、利用者によっては、体験入所を勧めています。また、入所については必ずご本人にお会いして心身の状態や本人の思いに向き合うように努めています。職員にも情報を共有化し、安心して入所できるようにしています。	○	相談から利用に至るまでにご本人、家族以外の関係者(ケアマネージャー、主治医等)からの情報を多く取り入れ、安心して利用できるよう関係づくりを充実したい。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた時点でご家族の求めているものを理解し、ホームとしてどのような対応ができるか話し合いを持つようにしています。	○	相談を受ける時に、利用者を前提にするのではなく、家族の立場に立って困っていることや不安など十分に聞くように個別に対応していきたい
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた時に、ご本人とご家族の思いや、状況を確認し、まず必要としているニーズを見極め、個々の利用者にあった支援の提案、相談を繰り返しながら信頼関係を築くように努めています。	○ ○	早急に対応が必要な利用者には、出来る限り柔軟な対応ができるようにしていきたい。そのためには、他の事業所や市町村の長寿介護課、地域包括支援センターとの連携を日頃から確立する必要性がある。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	早急に入所するようになった場合には、ご本人が安心して生活できるようご家族やかかわりのあった関係者に来ていただくよう協力をお願いしています。また、職員に個別対応をする期間を設けています。	○	本人やご家族がホームを見学したり、また、管理者や職員が自宅に出向きお互いに信頼関係を築くようにし、入所してから安心して生活できるようにしたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者とはともに支え合い、家族の一員として一緒に過ごす時間を大切にしています。人生の先輩に教えてもらう場面を多く持つようにしています。毎日の生活において、一方的な関係にならないように職員間で話し合いを持ち、入居者と共に支えあえる関係づくりに留意しています。	○	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら穏やかな生活ができるようにしていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族はご本人の生活を共に支援する対等の関係を築き、維持していくためにホームでの生活ぶりや気づきを細かく報告するように努めています。	○	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりをしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当ホームでは利用者が家族と疎遠にならないように家族との関わりを大切にしています。遠方にいるご家族には電話や、はがき、手紙を書き近況を知らせるようにしています。親子関係が希薄な利用者にはできるだけ連絡を取るようにしています。	○	入所した時は頻回にいられていてもだんだんと疎遠になるケースが多いように思います。できるだけ家族にも関わって頂くような関係作りをしていきたい。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が遠方にいる利用者の方にはホームの方でその利用者の友人、知人等に連絡をし、訪問したり、来て頂いたりしています。在宅生活を送っているときにお世話になった民生委員の方に運営会議に来ていただき、その利用者の交友関係を把握するように努めています。	○	入居者一人一人の生活習慣を把握し、ホームとして、これからも継続的に地域に暮らす人々と交流が持てるようにしていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	利用者同士の関係について職員間で常に情報を共有し、みんなで楽しい時間を過ごすことができるよう3時のおやつの中には職員も一緒に過ごすようにしています。また、利用者同士の関係が円滑にいくよう座席も考えて配置しています。	○	今後、利用者間で共に助け合い、支えあって暮らしていくために職員がどう関わっていくべきかどうかホーム全体で取り組んでいきたい。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅生活に戻られた方にも、声かけをし、行事等に参加して頂いている。	○	サービス利用が終了してもこちらから積極的に関わりを持つように努めていきたい。
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を通して利用者一人ひとりがどのように暮らしたいのか、ご本人、家族から情報を得るようにしています。	○	利用者によっては思いや意向を把握することが困難な場合があります。どう把握すればいいか職員全員で話し合い、取り組んでいきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人自身からの会話や、家族、知人などからも把握するようにしています。	○	積極的に自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者から情報を得るように努めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の暮らし方や生活のリズム(食事、睡眠、排泄の時間、回数、生活習慣)を把握し、日課表を作成し、職員全員で共有しています。	○	職員全員が利用者を総合的に把握していくことができるように努めていきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくための個別の介護計画を職員全員で取り組むようにしています。	○	職員の視点からみた業務をこなすための介護計画にならないようご本人、ご家族の思いや意見を聞き、計画に反映できるようにしていきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に設定された期間ごと、または本人家族の要望や変化に応じた介護計画になるよう見直しをします。各利用者の担当者を決め担当者を中心にケアカンファレンスを開催しています。	○	本人やご家族からの新たな要望や状況の変化がなくても毎月、見直すようにしていきたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況を把握するためのチェックシート、ケース記録、サービス計画書、担当者会議記録、その他面接記録など個別用のファイルを用意し、職員全員が確認できるようにしている。また、申し送りに申し送り簿を用いて日々の変化や、個人の情報の共有化に努めている。	○	ケース記録だけでなく、職員間で共有できる個別の小さな変化などをメモ的に記録し、ケアの充実を図りたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは母体が医療機関であるため、利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置等のサービスを提供できます。	○	年々、利用者も高齢化し、身体状況も確実に低下していきます。今後、利用者の終末期の対応についてどう関わっていくか検討していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らせるよう、2か月に1回地域密着型サービス運営推進会議を開催しています。自治会長、民生委員、近隣の方々にも参加して頂き、意見交換をしています。また、利用者と地域との接点を見出すためにもボランティアの受け入れを多く持つようにしています。	○	利用者が地域の行事等にもっと参加できるようにしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況に応じてリハビリ訓練のための送迎サービスの提供、訪問鍼灸マッサージの利用やボランティアによる理美容サービスの提供を行っています。	○	必要に応じて他のサービスを利用できるよう市町村、外部のケアマネージャーを常に連携を持ちたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に1回の運営推進会議に地域包括センターの職員にも参加して頂き、情報交換や支援に関する相談、アドバイスを受け、協力関係を築いています。	○	地域権利擁護事業の日常的な金銭管理のサービス支援をします。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	当ホームは母体が医療機関ではありませんが、本人及び家族の希望するかかりつけ医を支援します。基本的には家族同伴の受診となっていますが、不可能な時には職員で対応できるようにしています。	○	利用者一人ひとりの希望する受診にはなかなか対応できないのが現実です。できるだけ、ご家族に協力して頂けるよう御願ひしています。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームは母体が医療機関であるため、常に主治医と連携を取り、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。	○	久留米大学のほうで物忘れ相談が開設されるとのこと。今後、認知症に関する専門的な情報を確保し、適切な指示や助言をすることができるよう努めたい。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に正看護師を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしています。急変に対しても24時間対応しています。	○	当ホームは母体が医療機関なので、休日、夜間等に急変した場合でもすぐに対応することができます。利用者、家族に安心していただければと思います。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	やむを得ず入院する場合は、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、管理者が頻繁に見舞うようにしている。また、家族と情報交換しながら早期退院にむけて支援する。	○	入院によるダメージを極力防ぐ為に、家族と相談しながら医療機関に対して本人の情報を提供し、早期に退院できるよう支援する。



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う本人、家族の意思を確認し、当ホームで対応できる治療、ケアについて医師管理者から説明を行っている。また、状態の変化があるごとに家族に説明し、安心と納得が得られるように話し合いをする。	○	重度化や終末期に伴う意思確認書を作成し家族の意思を十分確認したい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の気持ちを大切にし、医師、職員が連携を取り安心して納得がいく最期を迎えることができるよう随時意思を確認しながら支援する。	○	重度化や終末期の利用者に対して、ホームとして最終的にどこまで取り組むのか方針を確立しておきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設、ホーム等に移られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援内容や注意が必要なことについて細かく情報を提供し、安心して生活が継続できるよう支援する。	○	ホームとしてはできるだけ、移り住むような事態にならないようにしていきたい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図れるよう、職員会議等で指導をする。	○	日頃から利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう職員に指導、徹底していきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で利用者一人ひとりに合わせた声かけをする。また、利用者と一緒に過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を把握し、それを基にして利用者一人ひとりが自分で決定することができるよう支援する。	○	職員側で決めたことを押し付けない。また、やむを得ずそういう事態になった場合は十分に話し合いを持つようにしたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあるが、一人ひとりの生活リズムやその日の状態の変化に合わせて、安心して過ごすことができるよう支援する。	○	利用者一人ひとりに合わせた買い物、散歩等の外出を多く取り入れていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者一人ひとりに合った支援を行う。また、普 段から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように 声かけをしています。ボランティアのカットを利用 する場合に希望する利用者にはカラーリングを しています。	○	おしゃれをすることで利用者の生きがいにもなる ため、化粧やおしゃれをして外出する機会を多く 取り入れたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活か しながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片づけのお手伝いをしたり、お絞 りの準備をして頂いています。	○	直接、台所に立って調理をすることが難しい利用 者にも、いすに座ってできる皮むきやじゃがい も、人参を切っていただいたりしています。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一 人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当ホームではできるだけ利用者一人ひとりに合 わせた食べ物を提供するようにしていますが、中 には食事管理の必要な方もいて、ある程度はこ ちら側で管理しています。これについては利用者、 家族にも理解して頂いています。	○	当ホームでは、原則として喫煙をする方の入居は お断りしています。しかし、今まで喫煙してい ても入居を機に禁煙される方は受け入れ可能 です。
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援してい る	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者には 時間毎にトイレ誘導をします。	○	当ホームでは、自立した利用者も含め、全員トイ レでの排泄を支援しています。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援してい る	入浴については利用者の希望を取り入れ、週3回 としていますが、個々の体調を配慮し、いつで も入浴できるようにしています。車イスの方は午前 と午後に分けて職員を増員して対応しています。	○	入浴の時間はどうしても昼間に集中してしまいま す。夜間に入浴されていた利用者の方もいらっ しゃいますので、今後は時間帯も検討したいと 思っています。
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ昼夜逆転しないように日中の活動を促 し、昼寝の時間も長くないように気をつけて います。一人ひとりの体調に注意し適度な運動を みんなです。利用者によっては睡眠剤を服用 しないと安心して休むことができない方もいま す。その時は主治医と相談し、なるべく薬にたよ らないように支援します。	○	夜間のナースコールの音に敏感に反応する利用者 もいて、ぐっすり寝られないと訴える利用者も います。どう対応していくべきか検討中です。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように編物、縫い物、花、野菜の手入れ、洗濯干し、たたみなどできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしています。当ホームでは、お手伝い係りを決め、職員と一緒にしています。	○	今後はもっとゆっくり利用者と職員と一緒に何かをする時間を設けていきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは原則としてお金は持たせていませんが、ご家族から預かり買い物等の時は利用者を持たせ、自分から払って頂いています。	○	自分の財布からお金を出すことは社会性の維持につなげるのだとは思いますが、中にはお金をなくし騒動する方もいて大変です。どうしていくべきか検討していきたい。
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回(水、土)に入浴のない日を設けています。その日に買い物、散歩等の外出をするよう職員の増員をしています。	○	利用者の身体機能に差があり、なかなか全員で外出できないのが現状ですが、今後もっと外出できるよう工夫したいと思っています。
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1~2回はホーム全体で外出するように計画を立てています。昨年はゆめタウンへ買い物ツアーをご家族にも参加していただきました。今年は花見のバスツアーをバス2台かりで職員も全員参加しました。車イスの利用者の方にも参加することができてよかったです。今度は巨峰狩りを予定しています。	○	利用者によっては、墓参りに行きたい、温泉に行きたい、ステーキを食べに行きたいと要望が多い方もいらっしゃいます。ホームとしてどこまで実現できるか職員間で検討し、できるだけ外出の機会を増やしたいです。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞、誕生会の写真など、利用者自身で書ける方には書いて頂き、また、書けない利用者には職員の方で代筆してご家族や知人の方に出しています。遠方のご家族には時々電話で近況をお知らせしています。	○	年に4・5回程度、ホーム便り等を作成し、ご家族にもっとホームでの利用者の様子等を知っていただくようにしていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも訪ねて頂けるようご家族、親戚、友人の方々に声かけをします。長時間いらっしゃる方には居室の方でゆっくり過せるようイスを準備します。中にはお昼を一緒にされる場合は利用者のお食事を居室の方へお持ちして対応しています。お茶、お菓子も提供します。	○	当ホームでは一応、面会時間を決めていますが、時間を決めていても各家族の事情に合わせて柔軟な対応をしていきたい。また、他の利用者に迷惑なかならないような面会の場所を確保していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設してから2年あまりになりますが、身体拘束をしなければならないようなケースはまだ経験しておりません。	○	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を高めたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	等ホームでは、まだ、1度も鍵をかけたことはありません。利用者によっては自由に玄関の外に出られて庭の花や、野菜いじりをしています。その時は遠くから常に見守り、声かけをしています。玄関にはチャイムセンサーを取り付けています。	○	今後、外出傾向のある利用者がいた場合を想定してその場合の職員の見守りの方法を検討していきたい。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員は利用者と同じ空間で過ごし、さりげなく全員の状況を把握するように努めています。夜間も1時間毎に利用者の様子を確認しています。	○	当ホームは1、2階と分かれており、各居室は2階にあるため、昼間は1階と2階に分かれて過ごされています。今のところは事故もなく安全に生活していますが。利用者の状況によってはもっと検討しなければと考えています。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意の必要な物は何かを把握し、全てを取り除くような事はせずに個々に合わせた対応をしている。	○	一人ひとりにとって危険因子は何か、管理方法はどうか今後確認していきたい。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状況から、想定される事故を職員全員で検討し、それをもとに事故防止策を立て事故を未然に防ぐための工夫をしている。事故やヒヤリハットに関する報告、記録をし、職員の共有認識を図っている。	○	転倒、誤飲等の事故の時の対応に関する勉強会を実施し、職員に指導しました。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に急変時の応急手当の勉強会を実施し、体験、体得、習得するようにしている。また、新職員にも随時指導する。また、夜勤時の緊急対応のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。	○	今後、行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施し、防災についての意識を深めている。また、地域の方にも協力を御願している。専門業者に6か月に1回消火器、火災報知器の点検を実施している。	○	ホームだけの訓練ではなく地域住民の参加、協力を得て非難訓練を定期的に行っていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人一人に起こり得るリスクについては、十分に把握しており、家族にその対応策を説明し、理解していただいている。	○	利用者にとっては、居室で過す時間帯にイスから転倒したりする場合があります。利用者にとって危険になり得る物をご家族に説明して取り除いたこともあります。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を十分把握し、少しでも顔色や食欲などの変化が見られたときはまず、バイタルチェックを行い、その状況により医療機関に受診させる。	○	常に顔色や様子に注意し、日頃の体温・血圧等を把握し少しの変化にも注意するよう全職員に指導しています。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報のファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は確認し、チェック表に記入する。薬の変更がある場合は申し送り簿に記入し、職員全員に確認するように徹底している。	○	薬の処方や用量が変更された場合は看護婦の指導のもとにきちんと服薬できているか確認する。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便をチェックし、便秘予防として食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便ができるようとりくんでいる。また、便秘がちな利用者にはきなこ牛乳で対応する。それでも便秘する場合は主治医に相談し、内服薬で対応する。	○	繊維質の多い等の献立を考えている。おやつにふかし芋やバナナを提供している。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、個々の能力に応じて職員が見守ったり、介助したりしています。定期的に義歯の洗浄を行っています。	○	毎食後の歯磨きだけではなく、うがいもするよう声かけしている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日チェック表に記入し、職員で情報を共有している。また、個々の状況に応じた食事内容に工夫をしています。	○	定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスをもらい、カロリーの過不足、栄養の偏りがなくチェックしていきたい。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホームで起こり得る感染症について、マニュアルを作成し、全職員に指導し、予防、対策に努めている。利用者及び家族に同意いただき、職員ともにインフルエンザの予防接種を受けている。	○	玄関入り口・台所・各トイレ等に手指用の消毒液(スプレー)を設置し、食事前には利用者にも手洗い消毒を励行している。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や、食器、水廻りの清潔、衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。冷蔵庫の整理、清掃、食品の鮮度や賞味期限の確認を頻繁に行っている。台所専用の消毒剤を置き、手洗いを十分するようにしている。	○	その日に調理した物は残さないようにしている。毎週木曜日は冷蔵庫の整理日とし、残った食材は無駄のないよう使用している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場から玄関までアプローチに手すりを設置し、利用者の安全に配慮しています。また雨の日の外出には駐車場に屋根があり、雨にぬれないようにしています。	○	地域の人達が気軽に立ち寄れるように、玄関先を明るく花を置いたり、ベンチを置く工夫をした。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入った場所に飾り棚を備えており、花を飾ったり、また、利用者の作品を飾ったりして自分の家の感覚を持ってもらえるよう工夫しています。	○	最近では、トイレ・浴室の換気をよくするため、カーテンを取り付けました。和室があるが、あまり活用していないので、もっとゆっくり利用者同士がくつろげられるようソファを置いたりして工夫をしていきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の廊下の突き当たりの場所にソファを置き、自由に利用者同士でくつろげるスペースを設けています。	○	屋根付きガレージにイスとテーブルを置き、外でおしゃべりをしたり、お茶を飲んだりできるようにしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい生活空間を作るために、今まで使っていた家具や電化製品などを置き、安心して生活できるようにしています。	○	当ホームでは、基本的には利用者の使いなれた家具等を持ってきていただいておりますが、ベッドだけ、こちらの方で用意しております。
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えや、温度調節には適宜行うよう職員に指導しています。また、冷暖房を使用している時期は時間ごとに温度調節に注意します。トイレは悪臭がしないよう、換気、消臭剤を使用し、常に清潔を保つようにしています。	○	1・2階に空気洗浄器を設置し、トレイには脱臭剤(芳香剤)をレンタルし、定期的に交換しています。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すり、浴室、トイレ、廊下などの居室空間が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている	○	洗濯干し場の出入り口へ昇降台を取りつけ、利用者が安全に洗濯物を干したり、とりこんだりできるようにしました。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって、「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている	○	利用者にとっては、トイレの自動的につく電気にとまどい、何度もドアを開け閉めする方がいます。トイレにカーテンをつけ、ドアを開放し昼間は電気を消しています。夜はドアを閉め、電気を自動にするようにしています。
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームには南側に小さいながらも庭と畑があり、花を植えたり、野菜を栽培して利用者を楽しんで頂いています。また、玄関前には屋根つきのスペースがあり、そこでお茶を頂きながらレクレーションなどを楽しんでいます。	○	玄関先や庭を地域の方たちにも開放し、交流の場として活用したい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、日々の生活の中で、ホームの理念である家族的な雰囲気を大切にしながら、利用者一人ひとりが安心して過ごすことができるよう管理者はじめ介護職員一同で努力しています。又、母体が医療機関であるため、利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置等のサービスを提供することができます。利用者本人、ご家族にも安心して頂ければと思います。